

## 公民館だより

H3. 3

地区  
良地  
由公  
民館

## 良識ある社会人

館長 小室 哲寛

三月の公民館主催の土曜座談会の中での一つの意見として「近頃通学列車の中でマナーの大変悪い生徒のグループを見かけることがある。子弟の道徳教育はどうなっているのか心配である。何とかならないものか」という問題が提起され、それについて次々と「親は知らないことが多い。もつと関心を持つべきである」「学校の生徒指導をもつと強化して貰う方法はないものだろうか」「それは家庭の教育に問題がある。小さい時からの親の関が大切である。成長に応じ親と子の対話の中で教育するべきである」等々ありその中で「これは社会人である我々の問題である。その様な生徒を見た場合は、見て見ぬふりをするのではなく、社会人としての良識で勇気をもって、その場で注意を与えるべきである」との言葉に一同清々しいものを感じたのである。その後にもつゞいて「そう思っている、後でどの様なしつべ返しを受けるか解らないと思うと、その勇気が起つてこない。不愉快に思つても黙つている」という意見にかなりの人がうなづき顔となつたが「やはりこれは公民館活動で、その輪を拡げていくことが大切だと思う」ということで区切

りとなり、公民館に前向きな姿勢への期待が寄せられたのである。そこで、私はこの意味をこめて、原点に返り社会人としての良識とは何か、についてとり組み考えて見たいと思ひます。

ずつと以前の話であるが「小さな親切運動」ということが、茅元東大学長等により提唱されたことがあり、全国民に共感を呼び、心ある人々により実践にうつされ、同時に社会教育団体も、学校も、企業もこれをとりに入れて推進しようと呼びかけたのである。しかし一見実行は容易なようであつても、いざとりかゝってみると、実際にはこれを進めることは仲々難かしいものであつた。

何故このような立派な、とり組み易いような運動が行われ難いのかを少しく考えてみると、私達が健全な社会生活を営む為には、社会規範が必要であり、これは勿論法律、条令、規則であり、成文化されていないものに道徳、習慣がある。これ等はいわば社会生活上の最小限度の倫理を定めたもので、これを守つてさえおれば一応倫理的には社会人として適格と言へるのかも知れないが、これは消極的な態度であるといわざるを得ない。

良識的な行動とは、その人の良識によつて裏づけられた自律ある行動でなければならぬ。社会規範を守るだけの消極的行動は良識的な行動とは言ひ難いものである。小さな親切運動は正しくこの良識的行動なのである。この良識的行動を起すには、良識の上に勇氣、正義感、自律性と言う様なかなりの精神力が必要なのである。このところが小さな親切運動も着々と進まない問題点である。

現代の世相として、真正面に人間の道をつき進む苦

を厭い、少しでも楽な安易な道を選ぶ傾向にあることは否めない。その様なことからこの小さな親切運動が残念ながら敬遠される結果となつて来たと思われるのである。現代の道徳の頹廢、倫理感の減退、価値観の分裂、使命感の衰退、帰属意識の低下等々が危惧されている世の中なればこそ良識思想、良識的行動が特に必要なのである。この意味からも我々は力を盡して狭き門より入り、連帯をして、良識的行動をとれる人間となれるよう努めなければならぬと思量するものである。

そこでそれでは「良識」とは何か、と言うことであるが、辞書には、良い見識、すぐれた判断力、社会人としての健全な判断力とある。これでは物足りない。もう少し突っ込んで漁ってみると、難かしく述べられている中で一言で云えば、良識の根元は神の意志、仏の心ということとなる。だんだん見えて来た感じである。更に進めると、カントは「道徳律」の倫理思想の中で、良識とは人間の「理性」であると説いている。良識とは理性なのである。

デカルトは「方法序説」の中に、良識はこの世の中ですべての人に最も公平に配分されていると説いている。私達の心の中に良識は同じ程度持っているのであるが、良識は知識として持っているだけでは十分でない。それは行動と結びついてはじめて価値をもつものである。良識ある行動とは、行動の基準を自己の良心と理性的判断におき、その行動に責任を持つ行動ということになるのである。

更にその行動を起すには「勇氣」が必要となつて来るのであるが、その良識ある行動を勇氣づけるものが、「正義感」である。かくてこの良識ある行動の推進力には

正義感―社会正義を推し進めようとする信念が必要なのである。

この良識、勇氣、社会正義という連繫した要素を尺度として考えれば、正に前述のマナーの問題についても、実にこのことが問われているのではないかとの思いに到るのである。その他数多くのこの種の現象も、社会人としての今一つの良識ある行動の望まれるものが実に多いことに胸痛む思いである。

我々は一人ひとりが今、この良識ある社会人となることをめざして努力しなければならぬことを痛感するものである。

それでは良識ある社会人となるということはどのようなことなのか。具体的にはどのような資質を伸ばせばよいのか、というようなことを次回以降折にふれ考えていきたいと思っております。

## 報告

一、成人式

日時 一月十五日午前十時

場所 宮津会館

宮津市の新成人二百九十五人が出席して郷土芸能

主事 船野 和雄

宮津おどりで式典が開幕「お互いに平和で心豊かな社会の創生に努めてください。」と徳田市長からあいさつがありました。

おめでとう新成人。輝かしい未来へ大きく羽搏いてください。

由良地区新成人（宮津市在住者のみ）

有田 美由枝 小田原博樹 森野 真由美  
山田 美香 川端 利宏 塩田 誠  
森本 知子 川崎 拓志 田中 絹代  
中西 寿 濱野 真一 大森 美香  
中西 賢也 山田 昇 山本 美幸  
山下 雅治  
(以上十六名)

二、第六回同和学習会（公民館・婦人会共催）

日時 一月二十日（日）午後一時

会場 由良の里センター

館長のあいさつと講師の紹介によって開催され

与謝地方公民館連絡協議会長

和田 義澄先生

の講演に続いて、映画『約束』（約四十五分）を上映し休けい。

十四時三十分『差別とは何か』という問題を提起し、分散会に入りました。

第一分散会（男子）

司会者 小室 哲寛

記録 奥野 彰

助言者 和田 義澄（講師）

第二分散会（女子）

司会者 中西 嘉重郎

記録 榎田 輝子

助言者 小室 二三子（人権擁護委員）

以上の日程で十七時三十分閉会しました。

同和問題は、基本的人権にかかわる問題であるが、残念ながら差別は現在も様々な形で未解決である。それを払拭するには、学習研修の積み重ねが必要であることに着目し、由良地区では既に五回の学習会が行なわれているが、今回は『差別とは何か』という問題を繰返し問題点として提起し、その本質から考えて見ようということで開催しました。出席者は、三十九名でしたが幸い分散会では、いろいろな意見が活発に出され、予定の時間をオーバーして閉会しました。出されたい意見のまとめが出来ましたら希望者にはお渡しします。

三、第十一回四部対抗一般男女バレーボール大会

日時 二月三日（日）午前九時

会場 由良小学校体育館

雪はないが底冷えのする寒い日でした。体育館の中では、見る者、する者すべてが手に汗を握る試合の連続でした。サーブの一球、レシーブの一球に我がチームの勝敗をかけて、真剣そのものの姿が展開されました。

「打たれるボールの一球々々に、こんなにもその意味と味わいができるものかと今更、驚かされました。」とは館長の閉会あいさつでした。

成績は次のとおりです。

優勝	男子の部	女子の部
準優勝	第二部	第四部
三位	第一部	第三部
四位	第三部	第二部
	第四部	第一部

四、第六回自治学級（参加者二十五名）

日時 二月十日（日）午後一時

場所 由良の里センター

テーマ 『宮津市政と地域づくり』

助言者 由良地区選出市議会議員

山下 伊左衛門氏

中西 孫兵衛氏

市政報告（項目のみ）

- (1) 山下議員
- ◎四次総合計画
  - ◎京都縦貫自動車道
  - ◎北近畿丹後鉄道
  - ◎丹後リゾート構想
  - ◎市が取り組んでいる事業
  - ◎新浜区の埋立
  - ◎ふるさと創生事業
  - ◎由良小グランド夜間照明
  - ◎由良幼稚園改築について
  - ◎石浦の岸田六郎氏から寄せられた山麓の公園他化
  - ◎宮津湾流域下水道他
- (2) 中西議員
- ◎由良地区当面の問題点
  - ①ゴルフ場について
  - ②マンション、マリナについて
  - ③リゾート施設への水の供給問題
  - ④台風による海岸ゴミの問題

質疑応答

（紙面の都合で一部のみQ&A）

- ⑤ 学校々庭照明
- ⑥ 由良駅舎について
- ⑦ 下水溝について
- ⑧ 国道舗装 他

Q、市道の金剛丸線と森ヶ鼻線の舗装について、通学路、墓地との関係で市土木課へ交渉、申し入れをする。

Q、由良の下水道の問題、特に負担についてはどうか。

A、(1)市の負担で先づ幹線を実現しなければならぬ。

(2)何づれ個人負担と考えなければならぬが、現今では尚早。

Q、温泉の認識と観光開発について（市政に反映されないか）

(1)石浦の山谷に試掘したらどうか。

(2)竹細工のみやげ産業の開発はどうか。

QA、大変よいご意見だ今後研究したい。

①由良は宮津市の表玄関であるのに観光宣伝が足りないのではないか。（由良海水浴場の看板がない。）

②奈具海岸は釣場に最適だ。もっと開発すべきではないか。

③議員と市民とのつながりが少ないのではないか。自治連で集約したらどうか。（地区民の声を聞く機会を自治連でつくれ。）

④釣場の開発は、もし人的災害が発生した場合の責任云々があるのでむづかしい。

⑤地区民の声を聞く機会を、公民館で考えてもらってはどうか。

③ (館長) 土曜座談会ではどうか。

Q、市四次総の施設設置について、グアハウス(保健医療の施設)はどうか。

A、四次総の中の、街づくり基本施策について説明

Q、フィットネスが公民館で主催されているが参加者を多くするため名称を変えたらどうか。

A、フィットネスとは自分の体力に合ったスポーツという意味である。自分なりに無理をしないようにしてスポーツを楽しんで貰うものである。

AQ、建設中のマンションの見学は出来ないか。見学ができるよう交渉する。が現在は工事中でキケンであるからできない。完成次第見学できるようにする。

その他列車運行改正での具体案、自治学級や、土曜座談会での出席者の発言を多くする配慮の要望、福祉協議会のボランティアについて等々の質問が出されました。

五、第十回四部対抗囲碁大会

日時 二月十七日(日) 午前九時  
場所 由良の里センター

新春恒例の囲碁大会で、盤上を凝視する選手の皆さんは、静かな中にも険しい目指で一石々々を打ちおろしていました。成績は、次のとおりです。

優勝 第四部 準優勝 第三部

三位 第二部 四位 第一部

六、フィットネス教室について

これまで、スポーツになじみのない方や、スポーツをしたくないが、そのきっかけがなかったり、気軽に参加できなかった方を主に対象とし、簡単なスポーツを通じて体を動かすことの楽しさを知っていただいて、健康づくりと地域の活性化を図るのがその趣旨です。あなたも一度来てみてください。楽しくて、おもしろいですよ。

毎月第二水曜日、午後七時三十分から始めます。だん／＼と暖くなれば夜間照明を使つてのゲートゴルフも行います。若い人にもお年寄りにも大変人気のある軽スポーツです。大勢の皆さんの参加をお待ちします。

- 第一回 十二月十二日 三十六人
  - 第二回 一月九日 三十二人
  - 第三回 二月十三日 三十三人
  - 第四回 三月十三日 二十五人
- の参加がありました。

七、土曜座談会

日時 三月九日(土) 午後七時三十分  
場所 由良の里センター  
出席者 十五名

しばらく休んでいたこの座談会を、今月から再開し、山下 伊左衛門議員から当面の市政、(市予算一五八億円や、四次総合計画の構想等) についての話を聞いた後、みなさんの忌憚のないご意見を聞くのがこの座談会

であるが、今後この会が進むべき道はどうすればよいのかを今晚のテーマとして話し合いました。  
(詳細は紙面の都合で割愛します。まとめを希望の方はお申出ください。)

## 報 告 二

### 一、寄贈

(1) 図書一〇〇冊 小西 平右衛門殿  
一〇〇冊寄贈の念願で次々とお寄せ下さいました  
図書が揃いました。  
ご高配の程厚く御礼申しあげます。

### 一年を振り返って

由良婦人会 榎田 輝子

歳月人を待たずと申しますが、年度末を迎えて公民館  
だよりに何かを、との事でございましたので、紙面をお  
かりしてまずもって御協力戴いた婦人会の皆様と、御支  
援賜りました各団体の皆様方に厚くお礼を申し上げます  
。一年を振り返る時、自治会、公民館との共催行事、婦

人会独自の行事と多彩な中で、各支部の役員さん方の活躍は本当に力強いかぎりでございます。そのおかげで多くの会員さんの御協力と御参加を得る事が出来、私自身就労者である為に御迷惑をかけながらも、実のある一年にして戴いたと深く感謝申し上げます。婦人会とは、生涯教育の中に位置づけられた婦人の学習団体であるとの事でございますので、組織における学習の場を提供して戴く仲立ちをするのが、役員の仕事であると思ひまして、会員ひとりひとりに学習の内容を知らせて、出来るだけ多くの方に参加をしてもらって、知識を広めていたゞくべく働こうと役員間で申し合せ取り組んで参りました。その結果すべての行事に大勢の方々の御協力と参加を得る事が出来ました。なんといっても宮津スポーツVの思い出は、由良婦人会員70%を越える参加で、楽しい笑い声と真剣なプレーの姿が今も鮮明に頭の中に浮かんで来ます。春の総会は暮らしを守る婦人の立場から、車社会の中にあつて、思いやりの交通安全について学びました。年度末には、広い視野と国際感覚を養おうと、山下久子様のお話を聞き、人との出会いの大切さ、手をつなぐ事のすばらしさ、生活物価の異いについて学びました。今私達の廻りを見つめるとき、世界の情報が飛び交う中で、日々の生活様式も、考え方も変わっております。十年前、五年前の婦人会と比べ、その内容も大きく変わって来ております。こうした情勢の中で、色々な思いや考え方はあるにしても、由良婦人会の今後の課題は、定年制ではなからうかと思ひます。勿論自分一人でも勉強は出来ませんが、一人はやっぱり小さいのです。私は多くの方々と共に学ぶ事で、少しずつ大きくなれるとこの一年間の活動の中で知りました、というより皆様に教え

て戴いたと思っております。婦人会は個々の勉強の場である事をふまえ、人生八十年代を共に学び、手をとり合い、声をかけ合い、取り残される事なくこれからの時代を精いっぱい生きてゆこうではありませんか！と呼びかけて終りとさせて戴きます。最後に由良婦人会に暖かい御支援と御理解を承りまして、ますますの発展にお導き下さいますようお願い申し上げます。

## 四部対抗囲碁大会

由良囲碁同好会

去る二月十七日に由良の里センターで、公民館主催の第十回四部対抗囲碁大会が行われ、第四部が優勝しました。

当日あさ、小室館長のご挨拶、激励をうけたあと一齐に対局を始め、各部五名を原則とするチーム編成で勝率による順位を競い、熱戦は夕方まで続きました。三名の自治会長さんを含む十九名の選手の大半は五、六十才台でしたがお元気な七、八十才台の方の参加もあつたのはこのゲームの素晴しさを物語っていると云えます。

棋力は六段から六級までという開きがありました。置碁も楽しく、夫々に碁のもつ味わいを堪能したことでした。また、日頃殆ど碁を打つ機会のないままその日を迎えた人もあれば、一方常々研鑽に励んでいるという人

もいましたが、一旦盤にむかえば互いに熱中し、時に奇声、嘆声を発しながらも、一勝を求めて頑張ったのは四部対抗の所為だったのでしようか。

由良地区では知りませんが、宮津全体としては小学生、中学生の囲碁教室もあると聞きます。全国的には女性の愛好者も多いといえます。この四部対抗の碁会にも若い声の聞えることを願ひ、また女性の混ったチームの組まれるのを夢みています。人数も五人一組でなく、七人でも十人でもと規模を大きくしていくことは無理でしようか。

碁の魅力を一口でいえば、白黒三六一個の碁石の躍動をみることだといえます。一つ一つの碁石が生命を与えられたように、打手の構図に従って舞を演ずることだと思ひます。

私達は碁を単に娯楽としてではなく、世界に通ずる文化として由良地区でさらに広めていきたいと念じながら、その手だての一つとして私達の同好会への入会をお誘いするものです。

中西 國雄

## 四部対抗バレー試合に参加して

二月三日、今年例年はない好天候に恵まれ、恒例の四部対抗バレー試合が、和気あいあいの中に開催されました。出場チームメンバーもいつもの、あの顔、この

山下 初子

顔 そして今年は若手が大勢参加した力強いメンバード  
 臨みました。対戦相手が気になる試合前のひととき。チ  
 ムワークをバツチリと組み、リラックスして頑張ろう  
 ね、と言いながらも緊張は隠しきれない。準備体操も念  
 入に身体の隅ずみまでに力が入る。さあコートへ。対戦  
 は二部です。相手のメンバもコートに上りました。練  
 習三分間 冷えきった手にボールが当ると身体のしんま  
 で痛く感じてくる。刻々と緊張感が増してくる。開始の  
 合図に、しっかりと意識して足を地につける。応援の声  
 と、コート内のヤングパワーに勇気づけられながら、一  
 セットと一セットと決めて、ストリート勝ちをしましたた  
 。緊張づめの硬い身体も、第一戦に、勝ったことにより  
 柔軟になつて余裕が出来てくる。そして第二回戦は一部  
 。メンバも、幾人が交代してコートに上る。まわりの  
 、応援の声も、ますます熱がこもる。ハラ／＼する場面  
 も幾度かむかへながら、これもストリート勝ち、そして  
 最後の相手は九連覇を狙う浜の路。どうしても勝ちた  
 い相手です。折角ここまで勝ち進んできたのだからと、  
 選手一同肩をたたき合い闘志を燃やしてコートに入る。  
 円陣を組み、もう一度お互いのポジションの確認。そし  
 て落ち着いて丁寧に行こうと励まし合つて位置につく。  
 開始合図と同時に体育館いっぱいに応援の声が広がって  
 行く。レシーブ、トス、アタックと相手とも一寸のミス  
 も見逃さない。お互いによくボールを追っている。ラリ  
 ーが続く。声を掛け合い、気合いを入れあう。不思議だ  
 。つね日頃、自分には考えられない程の体力がみなぎる  
 。ただ頑張るのみ。残念ながら、一セット目は取られ、  
 二セット目は自分達のものにする。天下分け目の三セッ  
 ト目。このセットは絶対に逃がすわけにはいかない。再

び円陣を組みチーム一同励まし合う。すさまじい声援が  
 再び空に舞う。選手、応援団、一丸となつての戦いとな  
 る。出場している選手にとつては、応援の声がパワーの  
 源になる。応援のありがたさをしみみ味わう。そんな  
 激戦の中、ついに最後のセットを勝ち取った。喜びの沸  
 き上がる中に五体いっばいに、いい汗を感じながら優勝の  
 実感を味わいました。この勝利に導いたものは、やはり  
 、チームワークのよさと、また大勢の声援して下さった  
 方たちの、おかげであると感謝しております。本当にあ  
 りがとうございました。また選手の皆様もご苦勞様でご  
 ざいました。今後もこのパワーとチームワークを「心の  
 糧」として頑張っていきたいと思ひます。

## フィットネススポーツ教室に参加して

大森 婦美子

「フィットネススポーツ?」耳慣れない言葉です。「  
 どんなスポーツなのだろう?」「自分の体に合った簡  
 単なスポーツで、体を動かすことの楽しさを分か合い、  
 健康づくりと活性化を図ることを目的としたスポーツで  
 す。」市教委より指導者を招き開催される」という案  
 内に誘われ、寒風の中、第一回は十二月十二日に由良小  
 体育館で実施されました。年令問わず、孫と嫁と



姑という関係のほほえましいSさん家族や、サークル仲間の間いつも若々しいIさん達、又婦人会員の方達等丸々着込んで「今晚は、御苦勞さん」と声をかけ合い集合。指導員の先生方の紹介がありまして準備体操に入りました。思い思いに広がって「ストレッツチ体操です」

「ストレッツチ」とは、筋肉を意識的に伸ばすことによつて疲勞により硬く縮んだ筋肉の緊張を和らげ、血行をよくしよりいっそうリラックスを与える体操です。

「くれぐれも急にぎゅうと伸ばさないこと」「心身ともリラックスしゆっくり徐々に筋を伸ばしましょう」「呼吸は自然に無理しない様に」等注意を受け乍ら、冷たい床に腰を「ドタッ」と下ろしたり、伏したり「痛々々：」「曲がらんワ」等笑い声。そのうち少し汗ばみ着込んだ上着を脱いで、軽装スタイルになりました。みんなは、やる氣満々。

参加者を三グループにわけ「シヨートテニス」「ソフトバレーボール」「インディアカ」と各々に指導員の先生方より「ルール」の説明を受け体を動かしました。

スポーツは不得手で声援を送る側にまわる私ですが、ソフトバレーは、ボールが柔らかく痛く無いので思う存分力を出し、コート外や思いがけない方に飛ばしたり、失敗ばかりそれでもみんなの顔は、笑みで許してもらえました。「声を出そう！」「それ、ナイスボール」等々、二時間余りですが、顔が赤くほてり快よい汗をかき充実した一時を過ごすことが出来ました。

四方医院の待ち合い室に掲げてあります、「人生六十才から」の一節「百歳にて時期をみてこちらからぼつぼつ行くと」各条を日々心すべしを目標にして、地区の皆さん方も健康増進にと意識的に参加され、身心ともに健

やかに長寿地区を目指して行けたら：と願っています。こん後月一回の練習日には、都合をつけ参加したいと思つています。やさしいスポーツですみなさん方もふるって参加しましょう。終りになりましたが、館長さんをはじめ関係の役員様方、御世話様に成り御礼申し上げます。

## 私の人生後半二十年とスポーツ

榎本 清

近年、人口の高齡化が急激に進み人生八十年時代を迎える中、今や高齡期は人生の引退ではなく、むしろ充実した熟年時期として位置づけることができるかと思ひます。

宮津市憲章の中に次の一節があります。

一、生涯を通じ健康に心がけ、教養を高め明るいまちをつくりましょう。

生涯を通じ健康で豊かに生活を送るためには健康の維持や人との交流による仲間づくりなどが必要不可欠であると思ひます。

私のつたない人生の後半をふり返つて見て、一貫してスポーツ（動き）の占める位置が如何に健康に及ぼす影響の大なることを痛感し、とにかく体を動かすことによつて健康を保持し、自分の健康は自分で守る決心をしま

した。それがストレッツチ体操です。

私とストレッツチ体操との出逢い  
昭和四十五年定年（五十才）満期となり、その頃から体力の衰えが目に見えて来るようになりまし。五十才を過ぎたら普通体力測定すると横ばいから下降線をたどるそうです。しかし、柔軟性だけは六十代、七十代でも自分の努力次第で保持できると思えます。古稀を迎え精神的には若いと思つていても、ふり返れば、アットという間に年の流れの早さに驚きというのが偽りのない事実でこの事は私だけでなく若い方々も何れこの道は避けて通ることはできません。そこで当時私は何とか健康保持について私の歩むべき方向づけをと考え、次の方法を実行に移しました。

(1)、東舞鶴駅から職場までの往復十三軒をバス通勤を自転車通勤に変更

(2)、職場で昼休み三十分間、卓球練習  
以上の二点が特に後々まで足の鍛練に役立ったと思えます。

昭和六十一年五月宮津市教育委員会主催の運動適性テストに参加、評価判定の担当係員から詳細な諸注意とストレッツチ体操をやってみてはどうかとその基本図を一枚頂き、風呂上りなどに実行しました。これが私とストレッツチ体操の出逢いでした。更に昭和六十三年、市教育委員会募集のスポーツ教室に参加、一年間（毎月二回）ストレッツチ体操その他定められた種目を仲間と共に修了後全員で「シルバースポーツクラブ水曜会」を結成し以後毎週一回、現在も続いています。ちなみに私どものスポーツクラブの最高年齢者は七十七才です。曰く「さわやかな汗を流しに毎週この体育館（宮津）に来るのが楽しい

みで待ち遠しいです」。私はこの高年齢であってもスポーツを楽しむその心意気に感じ入っている次第です。本年度も市教育委員会主催の各種スポーツ教室が開講されていますが地の利と申しましようか、どうしても地元宮津市内の者が中心となり由良から参加するものが極く限られた者になることは何としても、残念でなりません。積極的に参加される方はさておいて「時間に余裕がない」「家庭で一人でもできる体操はないだろうか」と思われる方々は今からスポーツに参加して見ませんか。幸いにも市教育委員会の指導で由良公民館主催で由良小学校体育館にて昨年十二月からフィットネス教室が毎月第二水曜日に開かれ、老若男女を問わず参加を望んで居られます。このフィットネス教室でとっくりと、ストレッツチ体操を体得し、ソフトバレーその他の種目の実習でストレスの解消とさわやかな汗を流されますことを切におすすめしますと共に私はこのストレッツチ体操を生涯教育の一環として継続したいと思つて居ります。

## 一念熱く

中西 富志

一、 さめやらぬ正月気分の内にしてテレビは報ず  
湾岸戦を

一、 心落ちつかず湾岸戦争の映像に目を凝らしみ

るわが日々重し

一、 我と同じく戦死者の妻となりゆくやアメリカの女性イラクの女性

一、 「戦争」の二文字を常に重く秘め生き来しを中東に戦おこりぬ

一、 戦死者の妻なれば日々反戦の一念熱くわが生きて来し

一、 冬時雨過ぎゆく昼は十二時のサイレンにだに戦時思えり

一、 流れよる椰子の実見つち赤道の島の戦に果てし夫恋う

一、 マニラ湾戦死者戦艦鎮もれるこの水底の夜を思えり

一、 南国にハイビスカスの群れ咲きてコレヒドール島は兵舎を残す

一、 水求めつつ逝きし夫が住民の水浴のさまをテレビに見つつ

一、 年ごとに夫に似て来し孫なりと遺影に告げて一日を終えぬ

一、 平和願いし夫ならむこの靖国に撒くごとくとぶ白鳩の群

一、 靖国の妻という名のきびしさに耐えし春秋われは古希なり

## 民謡玉音会の紹介

沼沢 宗吉

私共民謡由良教室の発足は昭和五十八年秋頃です。最初は趣味娯楽と云った程度のものでほんの軽い気持ちで先生と二、三人が集い合い教室を千鳥荘として月二、三回を練習日にあてていたのですが、五十九年に入ってから急に人数も増え同年五月には会員も十人となり内容もほゞ充実して来ました。よって十一月には日本民謡文化協会京都民謡玉音会の会員として全員が入会して改めてここに京都民謡玉音会玉簪会由良教室と命名され歩みだしました。故に会の定例行事として春は祇園甲部歌舞練場に秋は京都勤労会館に於て民謡フェスティバル又芸能祭等地域の行参加等やその間にも、おさらい会でお互の上達振りを確かめ合っております。そして六十一年にはその

人数も定着し会の規約も設けられてその運営に努力して参りました。六十三年七月には教室を「いこいの家」に移し十月に尾身両先生は教授となり舞鶴支部の発足にもない支部長として活躍中です。現に由良教室は月三回の水曜日を練習日として指導を受けております。今では民謡の良さ又むづかしさ等が少しづつ分り各々が意欲満々でお互いアドバイスしあい親睦と向上をはかつて和気合い合いの練習にはげむ日々です。

## 「成人になつて」

田中 絹代

今年、私は二十才になり、新成人と同時に、社会人となるわけですが、とても嬉しく思う反面、これまでなかった不安やとまどいがあるのも確かです。

今までは、与えられた物だけをソツなくこなしていけばすみました。したくもない勉強は適当に手をぬいて逃れる事も出来ました。しかし、これからは、与えられた物はもとより、自らがこれまで以上に学ばなければならぬと思います。

おとなになるということは、新しい義務と権利を得、責任も大きくなります。また、今よりも何百倍も厳しく、当然、甘えは許されないと思っています。でも、失敗

を恐れては何も出来ません。失敗しても、あきらめないで、何度でも挑戦し、何ごとにも積極的に、新しい事にチャレンジしてみたいです。また、自分に素直であり、いつまでも人を愛する気持ちを忘れずに生きていきたいとおもいます。

※※ ※※ ※※ ※※ ※※ ※※ ※※

## 大正琴十人の仲間

川崎 富久美

消極的で、石橋も叩かない私が……と今でも不思議な巡り合せでした。

二年前、実習館でジュース作りに来られた宮津の方が、いろいろな話の中で、大正琴の素晴らしさ、仲間作りの楽しさを話され、「先生を御紹介しましょう」と紹介して下さったのが、宮津琴修会（会員九十名）の田井敬二郎先生でした。

友達に声をかけ、隣、近所の方を誘ってみたり、友達が友達を誘ってやっと一年余り後、練習を始める事が出来ました。

最初は、物珍しさから教本のメロディを夢心地で弾いていましたが、毎度くの基本練習に嫌になったり、納得したり、最近では合奏の楽しさを知り、演奏会となる

と皆目の色が変わります。

「明日から特訓やで」。誰云うとなく決まってしまう。譜面のシャープが井となつて飛び、トレモ口、が、ピン／＼となつてかけ巡ります。

目を白黒させておられた先生も、どうやら記号であると気が付かれた様です。

「始めますよう」。 「ハアイ」。もう一度もう一度と繰り返す中に、素晴らしい音となつて響きます。

「上手やなあ」。 「みんな巧いなあ」。思わず自我自賛します。演奏会でのあの感激、「出来たあ!」。十人の仲間の絆を感じて胸が一杯になります。そうして仲間の輪が、違う趣味の輪となつて少しづつ大きくなつて行きます。

健康に気を付けて、十年、二十年、仲好くやって行きたいと思ひます。

第一、第三水曜日七時半から我が家で練習をしております。一寸覗いて下さい。詳しい事は近くの皆さんにお聞き下さい。

真下梅野さん、中西みつ代さん、山田よしのさん、酒本ゆくのさん、中西田鶴子さん、藤本貴美子さん、北野幸子さん、中西晴美さん、岸田鈴子さんです。

## 川柳

宮津番傘川柳会

肩書きが解けると萎む鬼瓦

保護色の保身眼鏡をかけ替える

田村 キ又工

冬越しがすむと色づく沈丁花

無人駅学生だけがにぎやかす

磯田 栄

木簡へ匂うロマンの道しるべ

安らかな眠りを覚ます考古学

大森 美智子

仰ぎ見る蒼さへ孤独落ちていく

宿命か根っ子は北へ向いて伸び

飯沢 鳴窓

四方 寿朗

く、くよくよするな、済んだこと

過去の失敗をいくら悔んでも詮ないこと

第一健康に悪い。済んだ事はきれいさっぱり忘れて新しい気持で出直そう。

ゆ、休まず服もう 降圧剤

。自覚症状が無いと血圧の薬はつい服み忘れがちだ。しかし中風や心筋梗塞などの合併症を避けるためには、血圧の管理は是非必要である。薬の副作用より中風の方が恐い。今の不養生が十年先に顔を出す。

ま、毎日欠かさず牛乳・卵

。コレステロールと聞くと皆んな敵のように思われるが、実はこれは本来血管を丈夫にしたり、病気を防ぐ大切な物質である。血液中のコレステロールが少な過ぎると、また中風の発作が起きやすい。昨年私の処の老人検診でコレステロールが正常値を越えた人はそう多くない(約十分の一)老人といえども一定量の動物性蛋白質を攝る必要がある。特に牛乳はカルシウムも多く、欠かせない食品である。

## 由良 〱 歴史と文化財 (三)

## 山椒太夫伝説の周辺 その八

山椒太夫が、はじめ、莊園の年貢の料を買い集める商人的な人物として登場し、由良に出入し、のちには、その利便から由良の地に生活を定め、その地の習俗にとけこみながら、奈具社の宮座に加わり、その中で、徐々に力を伸ばし、村の長たるべき百姓達とともに公文職に選ばれて公文所を構成する一人となり、土地の勧農の業に尽力しながら、一方では、自らの下人達を使役して、塩仕・農耕或いは舟運を利用して抬頭していったというように話を進めてきました。そこで、問題としなければならぬことを、少々走りすぎてしまった部分があります。た。そういう点を少し考えなおしてみたいと思います。先ず、由良の地に宮座の組織があったであろうということについてはあります。

奈具神社には、近世以後の文書が今も保管されています。それは、神社が村の長たるべき百姓が集まって、村の行事・神社の祭礼等について相談し、取りきめを行ないう、実行する中心になっていたことを示すものであるという事です。近世の庄屋・年寄という村方役人の制が確立される以前は、この宮座という組織が村の仕事の処理してきたのです。村方の書類が、其処に保管されているのは、当時の習俗を、その俣に伝えたものであるかと考えた訳であります。

また、近世以後の村の若衆組の頭だつ人々は「中老」(チユウロン)と呼ばれていました。若衆組には、中老の役職は中核であり、それ以上の階級はなかったのです。それは何としたことであろう。矢張り、若衆組といふのは、その上に何らかの組織があつて、それを補佐し実行する組織であつたことによるものと考えざるをえないのです。それが宮座であつたのです。

宮座には一定数の太夫と呼ばれる人があり、村の長たるべき百姓が選ばれて構成し、この人びとを補佐して村仕事や祭礼の中心となるのが中老と呼ばれる人達でありました。宮座が廃されて後も、この中老という役は若衆組の中に残されていつたのであります。この二つのことによつて、由良にも宮座があつたであろうという推定をした訳であります。

山椒太夫が由良に入り込んで来て、宮座に加わつたであらうというように考えたことについては、例えば、坂東武士である熊谷氏の一族が地頭職を与えられて三人荘に下つたとき、矢張り、その土地の八幡宮・大歳神といふ百姓等の宮む寄合に「可令勸行之」として宮座に加わつたことが分ります。権力と武力をもつ武士すら、それだけの心遣いをしていふのです。武力をもたない山椒太夫は、それ以上の心遣いが必要だといふことです。そうでなければ、新しい土地で、人望を集めることも信頼を得ることもできないし、土地の荘官の信望をのぞむこともできないのでしよう。

次に問題なのは、山椒太夫が日本海の水運―例えば、直江の山岡太夫とどういつながりをもつていたかといふことでありました。それについて、上石浦の山王社(現「中道神社」)の存在をとりあげてみたのです。

密教(修験)の寺院には、その鎮守として必らず、熊野社(寺門派)か山王社(山門派)が祀られています。由良では、如意寺という密教の寺があつて、熊野三所権現がその鎮守でした。石浦の山王社はこれと関係がありません。しかし、石浦の小字名に寺院の存在を示すものがあり、その寺院が例えば密教の寺院であるとすれば、或いは、それと関係があるかもしれせん。

山王社は、山岳の神である大山咋神を祭神としているのです。それが山の中でなく里の中に鎮座しているのです。それは何を意味するのかわかりません。このことの回答こそ「日吉大神人」の組織であります。網野善彦教授は「中世前期の北陸の廻船人は、日吉大神人になつています」とし、「日吉神人は海浜に分布して」いることを指摘されています。(「沈黙の中世」二〇二頁)この神人(「ジニン」)は神社の寄人、下級の神職で、神事に奉仕したり、一定の貢納の義務を負う者の(総称)の組織が、北陸一帯の水運を握つていたといふことがわかると、山王社の意味も解けてくると思ひます。

山椒太夫は、荘司或いはその代官として土地の山林を押さえる権限を握ると、その用材を利用して、造船をも一手に管轄することができるようになつたのです。それで、本格的に水運に乗り出そうとしていた山椒太夫は、日吉神人の称を手に入れようと考へたのです。しかし、これは、誰にでもできることではなかつたのです。それには、一定の貢納・奉仕ができる有力で由緒ある階層であることが必要でありました。山椒太夫も、その條件に合つたものとして、身分と称号を獲得し、日吉山王の神威によつて、各種の特権にあずかることとなつたのです。山椒太夫は、当然のこととして、その土地に山王社を

勸請することを実行したに違いないと思えます。鎌倉末期になると、「関東御免」の船が、越前国坪江荘の湊に入ったところ、土地の荘官や刀禰達によって、積荷を差押えられるという事件が起きています。通俗の権威というよりも、神仏の権威が重んじられた時代です。「関東御免」の津軽船は北條執権家の勢威を負っていた筈のものが「寄船」とされていくのです。交易が風除けか風待ちか何れか入港の理由があったと思えますが却下されているのです。矢張り、執権家の勢威が衰えていたことを裏書きしているのだと思えます。これと比較して、神仏の権威を負い特権をふりかざす日吉の神人の中には、傍若無人な行動が多かつたかもしれませぬ。それは、そうすること、自分の権利を守らざるをえなかつたということだつたのでした。直江の山岡太夫も、日吉神人の組織に加わつていた一人であつたと思われまます。それにしても、湊々の背景にある勢力関係を充分知つた上で、船を動かしていかなければ、越前坪江における津軽船の二の舞になるのです。そんな危険もある当時のことです。それだけの手配りをしななければ、山岡太夫も由良湊には入いつて来ることもできなかつたといふことです。(平成・三・三・一〇) 小谷

「参考書」

- ※ 東洋文庫版 「説経節」
- ※ 新潮日本古典集成版 「説経節」
- ※ 中央公論社版 「日本の歴史」第八卷
- ※ 小学館版 「日本の歴史」第六卷

- ※ 教育社版歴史新書 「日本商人の源流」
- ※ 佐々木銀弥著
- ※ 平凡社刊
- ※ 網野善彦外共著 「沈黙の中世」
- ※ 大日本古文書所収 「熊谷家文書」

編集後記

◎一月十七日、あのバクダツドの夜空を染めた対空砲火の無闇な赤い線模様と、空爆の高い火柱を見たとき、一瞬或種戦慄を憶えた。これは史上最悪の戦争になるのではないかということである。戦争とはむごい残骸と、はかり知れぬ悲しみを残すものである。短歌「一念熱く」は切々と心に響くものがある。

◎今回はサークルの報告を澤山いたゞき嬉しく思いますが。生涯学習の一環としてのサークル活動が益々発展することを希っております。

(小室)